



2021年10月8日

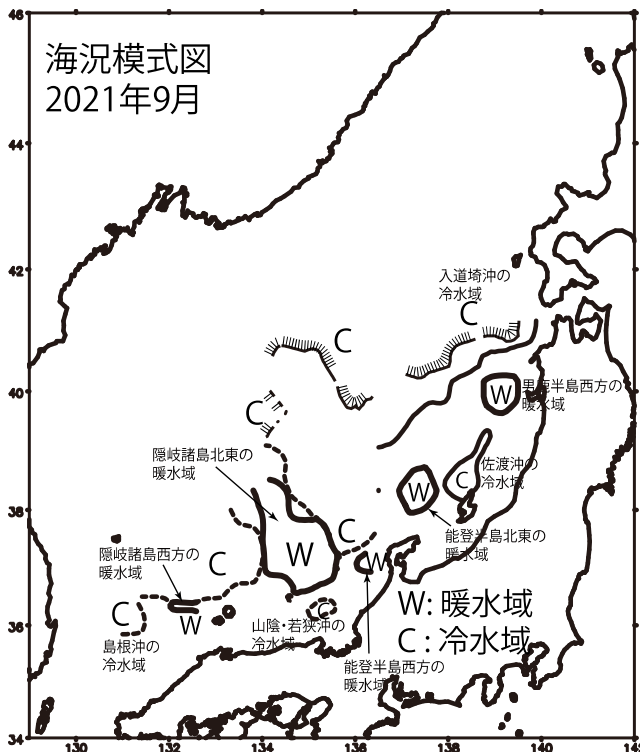
国立研究開発法人 水産研究・教育機構

2021年度 第3回 日本海海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2021年10月中旬～12月)のポイント

海況模式図
2021年9月



○隠岐諸島西方の暖水域は北西に進み、隠岐諸島北西に分布。隠岐諸島北東の暖水域は定在。能登半島西方の暖水域は北東に進み、能登半島西方に分布。能登半島北東の暖水域は定在。男鹿半島西方の暖水域は北上し、男鹿半島北西に分布。

○島根沖の冷水域の張り出しは、規模はやや小さめ、接岸距離はかなり離岸。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、規模は平年並み、接岸状況はやや離岸。佐渡沖の冷水域の張り出しは、規模・接岸状況ともに平年並み。入道崎沖の冷水域の張り出しは、規模はかなり小さく、接岸状況はやや離岸。

○対馬暖流域の表面水温は、“平年並み”。

○対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部は“やや高め”、北部は“平年並み”。

問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

担当：企画調整部門（横浜） 森永

海洋環境部（新潟） 渡邊、和川

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>

2021年度 第3回 日本海海況予報

1. 今後の見通し（2021年10月中旬～12月）

- (1) 隠岐諸島西方の暖水域は北西に進み、隠岐諸島北西に分布する。隠岐諸島北東の暖水域は定在する。能登半島西方の暖水域は北東に進み、能登半島西方に分布する。能登半島北東の暖水域は定在する。男鹿半島西方の暖水域は北上し、男鹿半島北西に分布する。
- (2) 島根沖の冷水域の張り出しは、規模はやや小さめ、接岸距離はかなり離岸で経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、規模は平年並み、接岸状況はやや離岸で経過する。佐渡沖の冷水域の張り出しは、規模・接岸状況ともに平年並みで経過する。入道埼沖の冷水域の張り出しは、規模はかなり小さく、接岸状況はやや離岸で経過する。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“平年並み”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部は“やや高め”、北部は“平年並み”で経過する。

2. 経過（(1)は2021年6月～9月、(2)～(3)は2021年6月～8月、(4)は2021年6月）

- (1) 6月に隠岐諸島はるか北西に見られた暖水域は8月まで定在した後に9月に消失。6月に隠岐諸島北東で見られた暖水域は9月まで定在。6月に能登半島はるか北方に見られた暖水域はやや南東に進み、9月に能登半島北東に分布。6月に山形沿岸に出現した暖水域は7月に南西に進み、8月に消失。6月に津軽半島西方に見られた暖水域は7月に津軽海峡から太平洋へ流失。7月に佐渡島はるか北方に出現した暖水域は東進し、9月に男鹿半島西方に分布。8月に隠岐諸島西南西に出現した暖水域は北上し、9月に隠岐諸島西方に分布。9月に能登半島西方に暖水域が出現。
- (2) 島根沖の冷水域は、6月はかなり小さくやや接岸、7～8月はかなり小さく接岸状況は平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、6月はかなり小さく接岸状況は平年並み、7月はやや小さくやや離岸、8月は規模は平年並みでかなり離岸。佐渡沖の冷水域は、6～7月は規模・接岸状況ともに平年並み、8月はやや小さめでやや離岸。入道埼沖の冷水域は、6月はやや小さくはかなり離岸、7月はやや小さめでやや離岸、8月はかなり小さくはかなり離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、6月は、石狩湾周辺で“かなり高め”、北海道北西沿岸で“やや高め”、佐渡島北西、富山湾北方、福井沿岸～沖合、丹後半島沿岸で“やや低め”以外、“平年並み”。7月は、利尻島西方で“やや低め”以外、“平年並み”～“やや高め”。8月は北海道沿岸～はるか西方、佐渡島沿岸～はるか北西で“かなり高め”～“はなはだ高め”以外、“やや高め”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部では“はなはだ高め”、北部では“かなり高め”。

3. 現況（2021年9月）

- (1) 暖水域は隠岐諸島西方、隠岐諸島北東、能登半島西方、能登半島北東、男鹿半島西方に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、やや小さくかなり離岸。山陰・若狭沖の冷水域は、規模は平年並みでやや離岸。佐渡沖の冷水域は、規模、接岸状況とも平年並み。入道埼沖の冷水域は、かなり小さくやや離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、北大和堆～津軽海峡西方で“やや高め”、佐渡島周辺で“やや低め”以外、“平年並み”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部では“やや高め”、北部では“平年並み”。

(註) 引用符(” ”)で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

- | | |
|----------------|-------------------------------|
| ” はなはだ高め(低め) ” | : 22年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ(低さ) |
| ” かなり高め(低め) ” | : 7年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ(低さ) |
| ” やや高め(低め) ” | : 3年に1回の出現確率である1℃程度の高さ(低さ) |
| ” 平年並み ” | : 2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温 |

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場	福井県水産試験場
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	京都府農林水産技術センター 海洋センター
秋田県水産振興センター	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
山形県水産研究所	鳥取県水産試験場
新潟県水産海洋研究所	島根県水産技術センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	山口県水産研究センター
石川県水産総合センター	一般社団法人 漁業情報サービスセンター (取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所